

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

配慮項目	評価点	重み係数	内訳													
			(※)各評価項目の評価点と重み係数													
■1.「地球温暖化対策」の推進																
1.1 建物の熱負荷抑制																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.25	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能										
	3.0	0.75	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制												
小計																
1.2 自然エネルギーの利用																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用												
小計																
1.3 設備システムの高効率化																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ エコジョーズ(熱回収式給湯器)の採用	4.2	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化												
小計																
1.4 設備システムの効率的運用																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング										
	3.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制										
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング										
小計																
1.5 資源・マテリアル対策																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ リサイクル商品の採用等でCO2排出を抑制	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水											
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	1 雨水利用システム導入の有無										
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2 雜排水等利用システム導入の有無										
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減											
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用											
	5.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 新材材料におけるリサイクル材の使用											
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 新材材料以外におけるリサイクル材の使用											
	0.0	0.00	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材											
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み											
小計																
1.6 ライフサイクルCO2排出率																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ リサイクル商品の採用等でCO2排出を抑制	3.8	1.00	LR3 地域外環境	1 地球温暖化への配慮												
小計																
1.「地球温暖化対策」の推進の評価																
■2.「ヒートアイランド対策」の推進																
2.1 温熱環境の向上																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出												
	3.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上											
	4.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善											
小計																
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価																
■3.「長寿命化対策」の推進																
3.1 耐用性の向上																
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 劣化対策等級3取得	3.0	0.50	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	2 免震・制震・制振性能										
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 軸体材料の耐用年数										
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔										
小計																
3.2 設備の更新性																
(コメント) ※設計の計画上段特に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性										
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性										
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性										
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性										
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性										
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保										
小計																
3.「長寿命化対策」の推進の評価																
■重点項目の総平均(上記3項目)																
3.3																